

オオナゲシ&赤岩岳山行報告

【山行日】2025年 4月 26(土) 晴れ
【集 合】岩舟支所P AM 5:00
【費 用】マイカー1台 : 2,700円
【メンバー】CL:鈴木、SL:藤原ト 飯野、福島
【コースタイム】岩舟支所 P5:00＝小倉沢
P7:40/7:55～赤岩峠 9:05/9:15～オオナゲシ
10:15/10:40～赤岩峠 11:10/11:40～赤岩岳
12:10/12:40～赤岩峠 13:10/13:20～小倉沢
P13:50/14:00＝道の駅「おおたき」14:30/14:50
＝道の駅「はなぞの」15:50/16:05＝岩舟支所
17:35



オオナゲシと赤岩岳のアカヤシオの花を、もう一度見たいと思い計画した。岩舟支所を6:00出発予定だが1名遅れていて、携帯に数回 TEL するが応答が無い。おそらく寝坊と判断し岩舟支所を6:



05に出発し国道50号線を足利に向かう。久保田の交差点を左折し、いつものように大泉町から熊谷市街を通過して国道140号線を奥秩父もみじ湖に向かう。奥秩父もみじ湖から右に中津川溪谷沿いに進み、林道金山志賀坂線を通して小倉沢の旧日室鉱山住宅跡手前の路肩に車を止める。出発の準備を整えストレッチを行なったら出発する。廃墟になった住宅の前を通り、「群馬県上野村に至る」と彫られた石標から峠道を登って行く。すぐ先で狭い木橋を渡り、沢沿いに樹林

帯の道を登って行く。薄暗い樹林帯の中を九十九折れに登って行き、30分くらいで明るい自然林の尾根に出て小休止する。衣服調整して水分を補給し、新緑の中に咲くミツバツツジを楽しんだら出発する。新緑の尾根を気持ち良く登ると急登になり、落ち葉が積もった滑りやすい道を九十九折れに登って行く。落ち葉の斜面に緑の葉とエンジの花が目立ち「これは何の花ですか？」と問われ、「これはハシリドコロと言う花だよ」と教えるがすぐ忘れる。ヒトリシズカの花や山桜の花に癒されながら登り、登り切った所が赤岩峠で石祠が祀られている。峠は風がやや強く、休んでいると寒いくらいで上衣を脱げなかった。ここからはヤセた稜線が続き、踏み跡も薄く分かりにくいので慎重に進む。直ぐに鮮やかなピンクのアカヤシオが出迎えてくれ、皆さんはウワ～綺麗とスマホで撮りまくっていた。

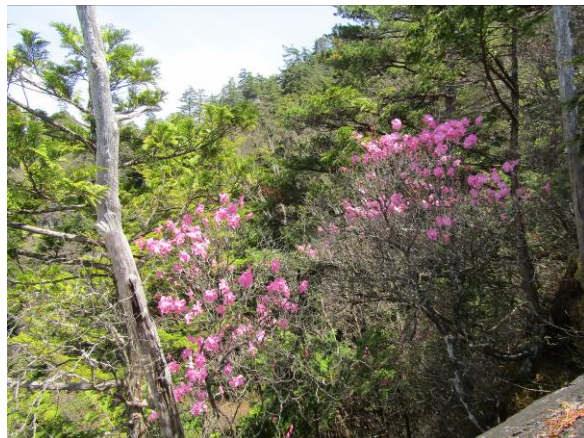


アカヤシオの花を楽しみながら稜線を進み、1493mピークで右にオオナゲシに向かって進む。



小ピークを2つほど越えると大きな岩場に突き当たり、ここからが大ナゲシへの登りになるのでヘルメットを付ける。急な岩場を登ったら左にトラバースし、クサリを頼りに登るが左側はスパッと切れ落ちている。何とか登り切ると樹林帯の急坂を進み、樹林の間にアカヤシオの花が素晴らしい。さらに短い岩場を登り切るとオオナゲシ山頂に出る。山頂は狭いが展望は抜群で、赤岩山や両神山、奥秩父や西上州の山々が一望の下見渡せる。山頂にもアカヤシオの花が咲いてい

て、展望と花を楽しみながらおやつをいただく。記念写真を撮ったら下山開始し、往路を赤岩峠まで戻るが岩場の下りは慎重に降りる。赤岩峠に戻りここでランチタイムにするが、ここだけ風が冷たく風を避けた場所を選びランチをいただく。ランチが済んだら赤岩岳に向かうが、ここからのルートはヤママップには記載されていない。峠から東に進みルンゼ状の急坂を登ると北陵のコルに出る。ここでストックをザックに付け、右の岩場を登って行く。岩稜に出ると右下にアカヤシオが群生し、その間に黄色いヒカゲツツジも咲いていた。再び急登になり木や根に掴まりながら登り、稜線に出るとすぐ左が赤岩岳山頂。山頂から赤岩尾根を八丁峠に向かって進み、アカヤシオの中の稜線歩きを満喫する。1583mピークまで稜線歩きを楽しみ、ピークで両神山の展望を楽しみながらリンゴをいただく。眼下には車を止めた住宅跡が見え、アカヤシオの花も素晴らしい。ここから赤岩峠まで往路に戻るが、急な下りが連続するので慎重に下って行く。赤岩峠まで戻り、ヘルメットを外して休憩を取る。ここからの下りも落ち葉に埋もれた急坂が続く、落ち葉に足を取られぬよう慎重に下る。緩やかな尾根に出ると少し安心して下り、樹林帯の道を下ると住宅跡に出て駐車スペースに着く。靴を履き替えたらずに車に乗り帰路につく。帰りは中津川溪谷の新緑を楽しみながら走り、途中の道の駅「おおたき」でトイレ休憩する。



皆さんは唐揚げやソフトクリームを食べ、岩場で緊張した体を癒していた。

今日出会った登山者は4名で、奥秩父と西上州の境に聳える静かな山を堪能出来た。